

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
函南町	桑原・大竹地区	令和4年8月17日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	200.297ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	200.297ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	66.337ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	66.337ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.500ha
(備考)	

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

対象地区の農地は、麓に近い部分ではある程度まとまっているが、ほとんどが山間部に点在しており、地理的条件から山林・原野化している農地が多い。70歳以上の農家が所有する農地が全体の34%以上となっているが、御山組合などの団体や町外在住者が所有する山林化した農地の割合が多く、実際には70歳以上の農家が所有する割合はさらに高いと思われる。中間管理事業により担い手が引き受けている農地も少なく、5年後、10年後には耕作放棄地が増加すると予想される。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・中心経営体への農地集約の検討を進めるとともに、ニューファーマーに対する受け入れ体制を整える。
・現状、中間管理権を設定していないで使用している農地から、利用権設定を行い、中心経営体への集積を行う。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

土地所有者および担い手への中間管理事業の周知徹底を図り、話合いを進めていく。
認定農業者等、中心経営体となり得る農家に対して、営農範囲に関係なく広く周知していく。